

令和2年度～令和4年度 第3回山梨県図書館協議会 会議録

- 1 日 時 令和4年2月22日（火） 午前10時30分～11時50分
- 2 場 所 県立図書館 多目的ホール
- 3 出席者 (敬称略)
- (委 員) 長谷川千秋、青柳千絵美、塩入由里、須藤令子、田中祐光、中山吉幸、
藤巻愛子、大藤愛子、鈴木和代、鈴木信行、大井奈美、五味優子、
日向良和、渡辺信二
- (事務局) 県立図書館：河手副館長、中村次長、千野司書幹、古谷総務企画課長、
飯沼資料情報課長、齊藤サービス課長
- (生涯学習課) 丸山主任
- (指定管理者) 富永支配人（代理 金原前支配人）

4 会議に付した議案

- (1) 開館10年を迎えての事業の総点検

事務局 議長は、山梨県附属機関の設置に関する条例第6条第1項の規定により長谷川会長にお願いする。

議長 議題（1）について事務局から説明をお願いします。

事務局 (資料1～5について説明。)

議長 県立図書館がどうあるべきか、またどんなことを望んでいるかについて、ご意見ご質問をお願いしたい。

委員 県民1人あたりの資料購入費は全国でどの位置にあるか。

事務局 人口1人当たりの資料購入費での比較はしていない。都道府県立図書館では、人口規模にかかわらず一定の蔵書が必要。蔵書冊数などで比較している。蔵書冊数は全国で最低ライン。購入予算は全国で中間あたり、年間4,000万円くらい。規模の小さな県としては大きな額だと思う。

委員 蔵書数は少ないが、来館者数は多いので、交流型の図書館であるといえる。孤立している人を支援組織と連携し、情報を結び付けて支えていくような、来館しなくても交流できる仕組みをつくるのも方向性としてあると思う。

議長 他にあるか。

委員 資料2。資料収集時のニーズの把握はどのように行っているのか。

事務局 年間の資料の収集は選定委員会で方針を決めて行っている。実際の収集は、週1回選定小委員会を設け、各分野の担当をもった職員が集まり、寄贈も含めて決めている。一般の出版情報はもちろん、日々の報道を含め、社会情勢等も踏まえた収集となる。利用者の意見は年1回のアンケートや業務の中での、購入希望等のリクエストで集める。様々な方法でニーズを把握し、総合的に勘案して、年間計画や毎週の収集に反映している。

委員 寄贈希望も踏まえて選定しているのか。

事務局 寄贈はこちらからお願いをするものと、申し出があったものがある。未所蔵であるもの、県関係のものを中心に受け入れている。

委員 断る場合もあるのか。

事務局 ある。大規模な寄贈などは収集方針等も踏まえ、検討して受け入れ可否を決める。

委員 資料1～3は成果の評価に20～30年かかる。

資料1。今後10年で読書活動を推進するには、蔵書の充実、ヤングアダルトなど年代を広げた活動などが考えられる。蔵書は10年で15万冊しか増えない。書庫にいく本もある。今後も開架の本は新しくしていく。新しい本が目に入ると、古い本もあると認識できる。

資料2。今後、課題解決は個人的なものが望まれるようになる。基本的には、市町村立図書館の役割。県立は図書館間の物流の強化などで支援していく。ま

た、これからはオンラインレファレンスを考えるべきである。

資料3。県関係の資料収集やデジタル化は評価している。今後は活用が課題になる。県民が地域を発信するとき、支援する計画があるか聞きたい。

資料4。成功例として紹介されることが多い。立地もあるし、建物の設計時から賑わいを創出することを想定されているため、常時イベントが行われている。これは指定管理者の活動も大きいと思う。コロナ禍でも、オンラインとリアル会場をつなぐイベントなどトータルで何らかの賑わいを創出できる。建物としての賑わいは評価されているが、甲府市内や地域の賑わいの創出ができていますか。市町村立図書館への支援やオンラインを併用した事業を増やしてほしい。全国図書館大会の経験を今後のイベントやサービスにつなげてほしい。

議長 様々な意見が出されたが、事務局から何かあるか。

事務局 市町村の賑わいの創出へどのようにかかわっていくか、という観点からの取り組みはなかったもので、今後検討したい。

議長 他に意見などあるか。

委員 資料1。1（1）。全国ランキングが2016年度に45位から46位になり、ずっとそのままだが、県の予算が少ないのか、あるいは他に理由があるのか聞きたい。もう少しランキングが上がってほしい。

1（3）。受入と購入の差（約2000冊）は寄贈と考えてよいのか。

1（4）。購入希望資料が年間で57点とあるが、そんなに少ないのか。

2（2）①。相互貸借の資料搬送が週1回とあるが、各市町村との連携を考えると少ないのではないか。

3（1）。「ブックトーク」は現場でどのようにいかされているのか。また、勉強会などを行っているのか。具体的に聞きたい。

4（1）④。子どもの読書指導者養成講座について。H28年から行っているので、たくさんの指導者が生まれていると思う。活用や成果について聞きたい。私も受講したが、修了後依頼等来たことがない。

資料3。3（1）。人員は配置していないとある。理由を聞きたい。配置されなくなると、そこで止まってしまうのではないかと危惧している。

1（1）。寄贈がかなり多い。頼っているということか。

資料4。交流エリアはどのような基準で貸し出しているのか。以前にイベントスペースで商品の展示をしていたが、疑問に思った。人が来て賑わえばよいということではないと思う。文化の拠点として賑わいを創出し、本との結びつ

きを強化することが求められていると思う。

議長 たくさんの質問があった。事務局から回答をお願いする。

事務局 資料1。1（1）の全国ランキングについて。予算が少ないということもある。購入費は全国的に下がっている中で、本県は20年間変わっていないこともあり、全国で中くらいである。購入冊数も変わらないので、蔵書冊数は最下位に近いままである。

1（3）。そのとおりである。

1（4）。購入希望は指定用紙に記入して申し込んでもらうシステムである。令和元年度、2年度はコロナで休館があったので、減っていると感じている。

事務局 2（2）。予算、人員の関係で週1回になっているが、今後市町村とも協議し、どのような形がよいのか検討していきたい。

事務局 3（1）。「ブックトーク」のシナリオなどはホームページにアップしているので、各学校で使用してほしい。見学に来た学校には、年齢に応じて、読み聞かせやブックトークを行っている。市町村の読書グループなどの読み聞かせ研修へ講師を派遣している。

4（1）④。修了者がどの団体にいるなどの情報をホームページ等で紹介している。各市町村や読書グループ、学校へ講師派遣の要望があれば声をかけてほしいと案内している。

事務局 資料3。3（1）。窓口配置の中で、効率等考え2階のレファレンスデスクにレファレンスサービス機能を集約している。デスクには常時職員がいるわけではなく、そこを基点としてサービスを行っている。

1（1）。旧館から積み残していた寄贈受入資料を集中的に整理し、令和元年度に終了した。令和2年度の数字が平均的な水準といえる。

事務局 資料4。利用案内規定を設けて承認している。ホームページにも載せている。クリアしていれば基本的に貸出している。話にあった、商品の展示は、販売ではないので承認した。

議長 委員からチャットで意見をもらっているが、それも含めて願います。

委員 蔵書冊数について。全国平均は90万冊、山梨県は70万冊弱。これまでの差が大きすぎる。お金をかければ増やせるが、ここ数年の本だけになってしまうので、更新時期も同じ。蔵書構成に偏りが出る。蔵書を増やすには新しい本と古い本を入れ替えながら少しずつ増やしていく形が一般的。予算を維持して、購入冊数を少しずつ増やし、100万冊を目指してほしい。年間1万5000冊増やし、30万冊増やすには20年かかる。県にそのくらいのスパンで考えてほしいと要望したい。

レファレンスデスクの人員について。旧館の郷土資料室には専門の職員がいた。それを新館でも実現したい。しかし、現状では難しい。公私ともに学習、研修をして、10年かけて育てるものなので、今すぐというのは難しい。県には様々な研究機関や博物館があるので、連携を深め図書館が窓口となり利用者ニーズを満たす答えができる体制をとってほしい。

フロアの利用について。多くの自治体で問題になっている。公的施設で利用を制限するのは難しい。運営規則を作るときに今回の意見を参考にしてほしい。全国的には営利目的を含めて、幅広い目的に貸し出しているところも多い。問題は図書館の活動に影響しているかどうかである。山梨県立図書館の評価が高いのは、図書館としての活動が評価でき、かつ施設の利用も多いからである。評価を維持してほしい。

議長 複数の委員からチャットでコメントをもらっているが、今の意見に関連している委員から先をお願いします。

委員 蔵書冊数を急に増やすのは難しいので、質の向上が現実的な方向である。県民のニーズにこたえ、満足度をあげていく。

ニーズをすくうために、収書方針や選書のプロセスに、可能な範囲で市民ボランティアに参画してもらい、ニーズを直接反映させるのはどうか。藤沢市では収書方針の策定に市民がかかわっていて、ニーズをすくいあげている。

場所を貸すという点では、テレワークの場所としてのニーズがあるのではないか。

課題解決の支援について。日本では病院や刑務所の図書室の資料が充実していない。学校支援セットの貸出を行っていると言っていたが、それと同じように病院や刑務所の図書室を支援し資料を充実させるのはどうか。

介護やうつ、認知症などの誰でもわかりやすく、正確な情報が書かれた本を、専門家が選書し、ブックリストにして公共図書館と共有し、市町村の図書館にそろえてもらい誰でも見られるようにするのもいい。相互貸借はタイムラグが

あり、冊数も限られていて県民ニーズにこたえられない。イギリスでは司書がカウンセラーや医師と協力して、本の処方箋というプロジェクトを10年くらい行っている。日本でもこれから困る人が増えると思われる課題に対して、同じような試みが始まっていると聞いている。サービスの質の向上につながるかもしれない。

地域学に関心を持ってもらうには、季節のイベントと連動させるのもよいのでは。節句などは山梨らしさがよく出ている。印伝のひな人形があると聞いた。印伝の人の技のコーナーで紹介するのはどうか。

議長 まとめて事務局の回答をお願いします。

事務局 ご意見として受け止める。報告に反映させる。

議長 話題がサービスの質の提供に移っている。

委員 子どもの保護者から、出かけるところがなくて家にいるが、何をして過ごしたらいいかわからないという話が出る。おうち時間が増えている今、本を楽しむチャンスだと思う。しかし、読書はハードルが高く、おうち時間とつながらない。親子や小学生が本を楽しむためのヒントを出すとか、やまなし読書活動促進事業や贈りたい本大賞などの情報を発信してほしい。

議長 委員からアイデアなどあると思うが、まず事務局からコメントをお願いします。

事務局 意見として、報告に入れたい。やまなし読書活動促進事業には重点を置いている。アイデアなどいただきたい。

議長 委員からいかがか。

委員 読書の考え方が幅広くなっている。生涯学習や娯楽も含めての様々な体験を県内の図書館が地域に届けていくのが、方向性だと考える。

ここ2年、子供たちが友達と会えない、自由に遊べないなどの意見をもらっている。現実の場所を設定するのは難しい。図書館がコンテンツやイベントを

設けるとか、オンラインで交流できるプラットフォームになれるなどやり方はある。人との交流を作るような場所を作っていく必要がある。しかし、県立図書館だけでは難しいので、教育委員会などと連携して、市町村の活動を支援してほしい。県民全体で賑わいを創出するような活動をしてほしい。

具体的には出てこないが、読書のイベントを県立図書館主催で、別の場所で行うなど考えてほしい。

議長

様々な有益な意見が出た。

最初に蔵書の量の問題が出たが、増やしつつ、質の向上を目指していくべきではないかという意見が印象的だった。蔵書の質や県民のニーズにこたえる、コロナ禍におけるニーズなどの問題、サービスの質という点でできることはないかという話もあった。「量から質へ」が鍵になりそうである。

2つめ。本を仲立ちとした交流の場が創出できないかという点。それには、県立図書館だけでなく、地域との連携も必要となる。オンラインも交流の場に行きそうな感じがする。

最後に。丁寧な資料を用意していただきありがたい。これをぜひ県民目線で発信していただきたい。この情報が県民にどのくらい届いているのか気になる。県民の満足度を上げるには、図書館が発信していくのも必要だと思う。発信方法も工夫してほしい。全国ランキング46位だが、こんなに頑張っているというような発信の仕方もあると思う。広報の工夫というところも考えてほしい。

事務局には、いただいた意見を踏まえて報告書をまとめていただき、次回協議してもらいたい。

議題2 その他。何か意見はあるか。

(意見なし)

それでは、議事については以上で終了とする。ご協力に感謝する。